

必見!! むかしの 実験機器展

東京大学
駒場博物館の資料から

なんてフオトジェニツクな《音響分析機》



この穴から炎が出るって本当ですか?

ハンドル?

1870年代にパリで作られたそうです

《音響分析機》Rudolph Koenig
パリ、フランス 1870年代
東京大学駒場博物館蔵

2017/11/22 wed - 12/20 wed
桐蔭学園アカデミウム ソフォスホール

開館時間●10:30-17:30(最終入館 17:00) 休館日●日曜・祝日 入館料●無料
主催●学校法人桐蔭学園 協力●東京大学駒場博物館、東京大学駒場図書館
桐蔭学園アカデミウム 神奈川県横浜市青葉区鉄町1614 TEL.045-975-2100 <http://toin.ac.jp/ma/>

TOIN GAKUEN ACADEMIUM

必見!! むかしの 実験機器展



《感応起電機》島津製作所
東京大学駒場博物館蔵



《骨格標本 アオダイショウ》柴山自然科学研究所
東京大学駒場博物館蔵

「必見!! むかしの実験機器展」開催にあたって

学校法人桐蔭学園 理事長 平岩 敬一

桐蔭学園アカデミウムでは、東京大学駒場博物館のご協力のもと、今から100年以上前に使われていた実験機器の企画展を開催いたします。展示している資料は約50点。そのほとんどは19世紀後半から20世紀初頭に制作され、第一高等学校(※)の学生たちが実際に使っていたものです。

当時の学生たちは、これらの機器で何を学んでいたのでしょうか。どんな原理を調べるためのものだったのか、想像力を働かせて考えてみてください。正確な数値や結果を求めるために使いやすく、かつ演示用としてデザインも考えられた機器の「かたち」にもまた、注目してほしいと思います。

初めて目にするようなユニークな形状のものも多く、中でも、1870年代にフランスのパリで制作された《音響分析機》は、音の周波数成分を炎の動きで見ることができる珍しい実験機器です。このほか、測量機器や図学の模型、骨格標本、教育用掛図の複製パネルなどの教材も展示しています。いずれも知的好奇心が刺激される、貴重な資料です。

現代の実験環境は、電子化により、コンピュータの画面上でデータ化された結果を確認するまでに進歩しています。むかしの実験機器は、X線発生のために静電気を集めて高い電位を得たり、鏡の回転を利用して光の速さを測ったりなど、「原理が目に見える」ことも特徴の一つにあげられます。目に映った一連の実験過程や結果から、さらに追究し検証を重ね、未知なる扉を開いていった礎があり、今日の科学の発展につながっていることが感じられると思います。先人たちの努力と才知に触れ、桐蔭生のみなさんの探究心、学ぶ心が育まれることを願います。

本展開催にあたって、ご指導くださいました関係各位に、心より御礼を申し上げます。

※1874年東京英語学校として創立、1877年に東京大学予備門と改称、1886年第一高等学校として開設。1894年三年制高校となり、第一高等学校と改称。1949年新制東京大学の教養学部と統合。



《フーコーの回転鏡》Société Genevoise ジュネーヴ、スイス 1870年代
東京大学駒場博物館蔵



《ブーソールエクリメートル》フランス 1890年
東京大学駒場博物館蔵



《教育用掛図 頭と胸腹縦断》
明治23年8月26日購入
東京大学駒場図書館蔵

TOIN GAKUEN ACADEMIUM



【桐蔭学園アカデミウム 交通のご案内】
※駐車場はございませんので、公共の交通機関等をご利用ください。

- 【バスご利用の場合】各駅より約15分
- 東急田園都市線 青葉台駅より「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車
 - 東急田園都市線 市が尾駅より「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」下車。または「柿生駅北口」行、「桐蔭学園前」下車
 - 小田急線 柿生駅より「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車

【タクシーご利用の場合】
東急田園都市線 青葉台駅、または小田急線 柿生駅から便利です。行き先は「桐蔭学園 鉄(くろがね) 神社前」とお伝えください。